

日出国の教育目標や生徒たちの学園での様子を発信する年3回発行の情報紙です。



学園通信日出

学園通信「日出」Vol.50 2026年9月30日発行

<https://www.hinode.ed.jp/>

発行：学校法人日出国

〒272-0824 千葉県市川市菅野3-23-1

MAIL: web@hinode.ed.jp

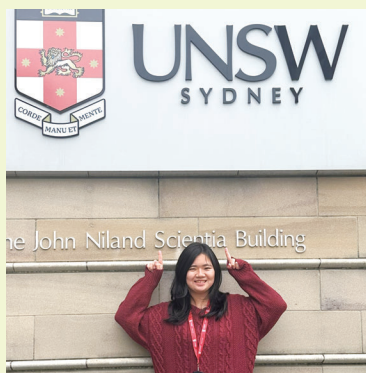
日出国公式キャラクター
日和かつば2026.10
Vol.50

英語学習特集 翔び立つ先はボーダレス

Global教育 Topics

日出国 卒業生からのメッセージ

在学中に多くの機会に恵まれたことが
海外で学ぶ私の原点に



University of New South Wales
工学部博士前期課程在籍
丸山 優果
Maruyama Yuuka

日出国を卒業し、オーストラリアの大学へ進学してから、気づけばもう6年。私は生まれつき耳が聞こえず、中学校まではろう学校に通っていました。普通学校を経験したいという思いを胸に、2017年度に日出国高等学校に入学しました。

ずっとろう学校で育った私にとっては、日出国での生活は何もかもが新鮮でした。決して楽しいことばかりではなく、大変なこともたくさんありました。それでも乗り越えられたのは、日出国のアットホームな雰囲気の中で支えてくださった先生方や、先輩・同級生・後輩のおかげでした。

昔から日出国のお気に入りの場所は職員室。あんなアットホームな職員室はこの学校に行ってもないでしょう。高校2年生のときにオーストラリアに短期留学をして、日出国主催の

Life is Tech!のイベントに参加したことで、「海外大学でアプリ開発の研究をしたい」と思うようになった経験が、現在の私につながっています。

日出国は、生徒たちに多くの機会を提供してくださる学校です。その機会を恐れずに挑戦できるかが、将来の自分につながるのだと思います。私は日出国在学中にたくさん失敗をしましたが、温かく見守ってくださった先生方のおかげで何事にも挑戦する姿勢が身につきました。

現在はシドニーにあるニューサウスウェールズ大学(UNSW)工学部で、全額奨学金をいただきながら博士前期課程の学生として、高校2年生の頃に夢見ていた目標を実現し、ARグラスと言語学習に関する研究に取り組んでいます。オーストラリアという自分らしくいられる国に出会えたことで、日本を離れた6年前の私には想像もで

きなかった未来を歩むことができています。

日出国の先生方へ、高校時代の私はいろいろと悩んでいましたが、今の私は胸を張って幸せだと言えます。今の私の幸せの一部を作ってくれた日出国に、心から感謝しています。

恩返しとして、これからも海外大学へ進学した卒業生として、留学を考えている在校生の力になれたら嬉しく思います。

●プロフィール

2019年度日出国高等学校卒業。Eynesbury Collegeファンデーションコースを経てアデレード大学でメディア学士号、シドニー工科大学でインタラクションデザイン修士号を取得。現在、ニューサウスウェールズ大学工学部博士前期課程に在籍し、ヒューマンコンピュータインタラクション分野において、ユビキタスコンピューティングを中心とした研究に取り組む。

※ニューサウスウェールズ大学は、世界大学ランキングで常にトップ20に入る世界最高峰の超難関大学(編集付記)

巻頭言

英語で世界とつながる グローバル教育の最前線

日出国小学校の英語教育プログラムが大改革を実施してから、3年が経過しました。本校では現在、単なる語学の習得にとどまらない、総合的なグローバル教育を展開しています。

1年生から6年生までの英会話クラスでは統一テキストを導入し、1～4年生では「Explorer」と「Core」の習熟度編制を採用。個々の習熟度に合わせたきめ細やかな指導を行うとともに、1～3年生でフォニックス指導を徹底し、発音と読解の確かな基礎を築いています。

最大の特長は、英語「を」学ぶだけでなく、英語「で」学ぶ教科横断的なアプローチです。保健、図工、家庭科、理科などの他教科の内



日出国小学校 英語科
藤本 英理

容を取り入れ、各単元を通して世界各国の文化や多様な価値観を学びます。この号の特集「Global教育Topics」で紹介されている、1年生が取り組んだ「英語でラジオ体操」も、英語科と体育との教科横断的プログラムのひとつです。

さらに、グループでの協働学習やプロジェクト活動を通じ、将来の成功に不可欠な批判的思考力、創造性、協調性を育成。日常的にICT機器やインターネットを活用することで、情報・メディアリテラシーも効果的に育みます。

プログラムの目標は、豊かな国際感覚と実践力を備えた「総合力のある英語使い手」の育成です。

世界とつながることから 未来を考える

「グローバル」という言葉が、社会のキーワードとなって久しくなりました。中高生は、自分の将来や人生について考え、その実現に向けて動き始める時期です。本校の卒業生にも、海外で暮らし、働き、活躍する人生を選んだ卒業生がいます。これからの生徒たちにとって、「どこで、どのように生きるか」という選択肢は、ますます世界へ広がっていくでしょう。

また、グローバル化は海外だけの話ではありません。市川市でも外国籍の方が人口の5%を超え、多様な文化や価値観を持つ人々と共に暮らすことが、身近な現実となっています。

だからこそ、英会話などを通して知識や技能として学ぶことと、留学や海外研修、留



日出国高等学校 教頭
佐久間 究

学生の受け入れなどを通して体験として学ぶことの両方が大切です。本校ではGlobalイベントやEnglish CAMPなどにも取り組んでいますが、中でも姉妹校St Paul'sとの交流は重要な学びの機会です。

今回、コロナ禍を経て再開したオーストラリア研修旅行では、St Paul'sの生徒や先生方、ホームステイ先のご家族との交流を通して、遠く離れた世界の人々と共に生きることを、生徒たちは実感しました。

世界を知ること、自分の可能性を知ることでもあります。こうした出会いを大切に、生徒たちが広い世界の中で自らの未来を考えられる教育を、これからも進めてまいります。

英語学習特集

Global教育Topics

飛び立つ先はボーダレス

日出学園では、幼稚園から高等学校までの一貫教育課程のひとつとして、グローバル教育にも力を入れ、幼児期から英語遊びなどを通じて英語に慣れ親しみ、小学校から高校にかけては、高校卒業時まで英検レベル準1級の取得を目指すべく、英語学習に力を入れています。また、将来、国境をまたいで活躍する人材育成として、オーストラリアの姉妹校等の相互交流研修を行ったり、海外留学などを奨励しています。今回は、2026年1学期に、小学校、中学校・高等学校で行われた「Global教育」のいくつかをご紹介します。

Elementary school

今年度より4～5年生全児童が英検を受検

日出学園小学校では、これまで英語の語学力の検定試験は、「実用英語技能検定(英検)」を1年生から6年生まで、希望者のみ受検していましたが、今年度より4～5年生の全児童が受検します(英検6～7級の導入延期が日本英語検定協会より発表されたため、3年生以上の全児童受検は見送りました)。

英検は5級(中学初級程度)から1級(大学上級)まで7段階に分かれていますが、現時点で小学校の英検受検者が各学年で各級を何名取得しているかを調査し、その結果がまとまりました(下記表)。

今回の調査結果を見ますと、3年生や4年生以上の学年で中学および高校生レベルの級を取得している児童が一定数いることがわかります。4年生では、日出学園の学園目標として掲げる「高校卒業までに準1級」を取得している児童もいます。

今後は、英検の全児童受検も検討されており、その取り組みの成果が期待されています。

2026年度 小学校英検取得者(2026年6月1日現在)								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	級別計	
学年別児童数(人)	81	100	109	100	103	103	596	取得率
5級(中学初級)	4	3	7	9	11	14	48	8%
4級(中学中級)	1	1	7	6	2	8	25	4%
3級(中学卒業)			2	5	2	5	14	2%
準2級(高校中級)		1		2	1	1	5	1%
2級(高校卒業)				2	1		3	1%
準1級(大学中級)				1			1	0%
1級(大学上級)							0	0%
学年別計	5	5	16	25	17	28	96	16%
学年別取得率	6%	5%	15%	25%	17%	27%	16%	

1年生が「英語でラジオ体操」

小学1年生が入学してすぐに体育の時間に習うのが「ラジオ体操」です。毎週の朝礼や5月末に行われる運動会でも、全児童が一斉にラジオ体操を行います。

今年の1学期、1年生にラジオ体操を指導した体育科の後藤紗智子先生は、1年生たちが「ラジオ体操の動作が、アルファベットの文字と似ている」と気づいたことに着目し、「Tの形や、Oの形があるね」と、児童たちがラジオ体操をきれいに覚えられるよう、動作に合わせてアルファベットの文字を掛け声で入れる練習に取り組みました。

「ラジオ体操とアルファベットの文字を連動させることで、これはアルファベットを覚える英語の授業ともコラボレーションできるのでは」と思い、英語科のエリー先生やアリソン先生とも相談し、1年生の英語の授業でも「英語でラジオ体操」に取り組んでもらうこと



英語の時間に、1年生たちは一生懸命ラジオ体操を練習にしました(後藤先生)

1年生たちは4月後半から週1回の英語の授業で「英語でラジオ体操」に取り組み、腕の上げ下げなどの動作も「Up! Down!」と英語で掛け声を発声するなど、体育と英語のコラボレーションの授業が進められました。

そして授業の集大成として、夏休み直前の7月17日、1年生全員による「英語でラジオ体操」が行われ、今年の1年生もしっかりとラジオ体操をマスターすることができました。

「英語でラジオ体操」の授業の様子はQRコードからご覧いただけます▶



Junior High School and High School

姉妹校 St paul's との相互交流が本格的に復活

オーストラリアの日出学園の姉妹校、St Paul's Anglican Grammar Schoolとはこれまで相互に訪問して、交流が続けられてきました。それが、コロナ禍によって中断され、2024年度、5年ぶりにSt Paul'sの生徒が来日して交流が再開されました。

日出学園の生徒によるオーストラリアへの研修旅行も、今年ついに復活。相互交流の流れが戻ってきました。

6月22日～24日の3日間、St Paul'sの生徒31名が来校。初日のWelcome集会では、日本のアニメや日本文化に興味のあるSt Paul'sの生徒から「どうぞ、日本語で話しかけてください」との要望があり、中学校・高等学校の各クラスでは、早速互いに自己紹介しながら会話するシーンが見られました。

3日間の滞在期間中は、中学校・高等学校の生徒たちと一緒に授業や部活を体験したり、最終日には小学校や幼稚園を訪問し、児童や園児たちとも交流する機会が設けられました。

夏休み中の8月12日から21日にかけては、日出学園の生徒26名がオーストラリアを訪問。10日間の研修旅行で言語や文化、習慣が異なる環境の中で、フレンドリーな人々と触れ合い、多くの貴重な体験を積むことができたひと夏だったようです。



St Paul'sの皆さんは、最終日には小学校と幼稚園を訪問。児童・園児と交流

St Paul's生徒の日出学園滞在中の様子はQRコードからご覧いただけます▶



日出学園中学校・高等学校生徒 オーストラリア研修旅行滞在記(8.12～8.21)

言語が違ってもしっかりとしたやり取りで人との距離を縮められた10日間

4年5組 橋本 祥悟

今回は、僕が今年の夏休みに日出学園が行っている10日間のオーストラリア研修旅行に参加し、得た素晴らしい経験を紹介します。まず、ホームステイという形で長い時間を現地の方々と共有できるスタイルに魅力を感じ、参加しました。次に、出発前には、現地の文化や歴史、ホストファミリーと話す際に役立つ話題などを調べました。

そして、特に印象に残っているのはホストファミリーや姉妹校のパディとともに、スポーツやゲームをして一緒に笑ったことです。特にホストファミリーの子どもたちとは、学校では休み時間にバレーやサッカーをし、家に帰るとすぐに外でバスケットやAFL※をして、夕食後はともにボードゲームをして遊び、気づけば時計の針は22時を指しており、急いで片付けをしました。どれもかけがえのない思い出です。



※AFLとは、オーストラリアで国民的人気を誇る固有のフットボール競技「オーストラリアンフットボール(通称フットイ)」、およびその最高峰プロリーグである「オーストラリアン・フットボール・リーグ」のこと。

言語は違えど積極的に関わることで距離を縮められることを学び、人の温かみを多く感じながら非日常な日常を送りました。長いようで短かった10日間でしたが、この先二度と忘れない10日間になったと思います。

皆さんも機会があれば、ぜひ参加してみてください。

日本にも取り入れたい習慣や文化を学び心温まる交流ができたオーストラリアでの経験

5年4組 大西 那奈

私はこの夏初めて留学に行き、そこでオーストラリアの習慣や文化などについてたくさん学ぶことができました。

朝にコーヒーやチョコレートラテ、紅茶などをクッキーとつけて飲んだり、資源を大事にする国ということがあり、一週間に数回しか洗濯の時間がなかったり、リサイクルボックスが道のあちこちにおいてあったり、リサイクルボックスの隣にゴミ箱も設置されていたりと、とてもきれいな道や空気が緑や自然が多く、過ごしやすかったです。

他にも、オーストラリアの街中には「ラウンドアバウト※」があったり、野生動物がいたり日本とは違うところが多くありました。St Paul'sの学校ではパディと一緒に授業を受け、最終日にはアフタヌーンティーの時間を設けていただき、St Paul'sの生徒さんたちとお菓子を食べながら交流することができました。

私が過ごさせてもらったホストファミリーの方も、姉妹校である生徒、先生方、私が行ったお店の方々など、たくさんの方々が親切に声をかけてくださり、とても心暖かく、初対面の人と話す楽しさを感じました。

今回の研修旅行を通じて、私は日本にもオーストラリアのような文化が欲しいなと思いました。



パディのElizabethさんと大西さん

※ラウンドアバウト(Roundabout=環状交差点)は、中央に島があり、信号機や一時停止の規制がなく、車が時計回りの一方通行で円形の道路を進む交差点。合流と分岐を繰り返すことで、より安全に進行方向を変えられることが特徴。

2026年度オーストラリア研修旅行の様子はQRコードからご覧いただけます▶



Topics

幼稚園

未就園児親子クラス「ふたば」の保育内容が一層充実 2人の専任教諭体制、外部講師によるリトミックプログラムなど プレ幼稚園として保護者の満足度向上を目指す

幼稚園に入園する前に、親子で日出学園幼稚園の雰囲気を体験したり、同年代の幼児や幼稚園の園児とも触れ合うことができる、**未就園児親子クラス「ふたば」**が、今年度さらに保育内容内容を充実させて開催しています。

昨年度までは5月から9月までの前期と、11月から翌年1月までの後期の日程でしたが、今年度より前期は4月から9月、後期は11月から翌年3月までと、10月の入園選考期間を除き、開催期間が通年に拡大されました。また、担当教諭も前田奈保先生と池田末緒先生がふたばの専任として配置されました。

幼児たちに人気のリトミックは専門の外部講師2名が受け持ち、ピアノの音楽を聴きながら、自由に体を動かし、リズムを取ったり、先生の問いかけに楽しそうに反応したりと、幼児期に相応しい表現力、集中力、心身のバランスなどの基礎能力を養います。また今期より同じ曜日コースのお友だち

日出学園幼稚園 未就園児親子クラス「ふたば」

期間	前期 4月～9月			後期 11月～翌年3月		
	火曜コース 定員15名	木曜コース 定員15名	土曜コース 定員20名	火曜コース 定員15名	木曜コース 定員15名	土曜コース 定員20名

のお誕生会を開いて、普段の幼稚園の行事と同じようなプレ幼稚園としての体験ができる内容です。

今年度前期の「ふたば」は、7月上旬には火・木・土曜コースすべてが定員に達し、7月25日(土)に行われた、未就園児対象の「親子お楽しみ会」にも、「ふたば」に通われる幼児と保護者の方々が大勢参加してくださいました。前期の「ふたば」は、保護者は10月の入園選考を念頭に置いて利用される方が多く、ご参加いただいたお子様たちが、新たな日出っ子として来年度入園してくれることを、心より楽しみにしています。

未就園児親子クラス「ふたば」の紹介動画は、QRコードからご覧いただけます▶



今年度より「ふたば」は、前田先生(写真左)と池田先生(左から2人目)の、2人の専任教諭が担当



リトミックは手や体を使ってリズム感やバランス感覚などを養います

幼稚園

園児たちがつくった味噌と 菜園で育てた野菜を使って 味噌汁づくりの食育体験 7月9日🍷

幼稚園の年長クラス前の園庭に、小さな菜園があります。ナス、トマト、ピーマン、きゅうり、枝豆、オクラなどの野菜を、年長園児たちが春に種や苗を植え、当番が水をやりながら育て、夏休み前に収穫し、お昼ご飯の時に味噌汁にさせていただくという一連の流れを、日出学園幼稚園では「食育」体験と位置付けて、毎年行っています。

特に今年度の年長クラスでは、昨年度の11月、年中時に大豆から味噌を自分たちで作って仕込むという新たな試みに挑戦。その手作り味噌も出来上がり、7月9日には菜園で収穫したナスとトマトを味噌汁とパスタにいただきました。また、収穫した枝豆は塩ゆでで、園庭で育った桃はデザートでいただきました。

スーパーなどで手軽に食材を手に入れることが当たり前の現在、自分たちが育て、収穫した食材を食べるこの体験は、園児たちにとっては食べ物がどうやって食卓に並ぶかを知る、貴重な体験と言えるでしょう。



年長園児の「食育体験」動画は、QRコードからご覧いただけます▶



中学校 高等学校

日出学園卒業生の立教大生がガイド役を務めた 立教大学池袋キャンパスツアーを開催 4月30日🍷



立教大学のシンボリックな建物、モリス館の門を入って構内へ

新学期、進級して間もない4月30日、中学3年生が立教大学池袋キャンパスを訪問。日出学園高等学校を卒業した立教大学生8名がガイド役になってのキャンパスツアーが行われました。



荘厳な雰囲気に包まれたチャペル。しばし、会話が中断です



卒業生に導かれながら、数年後の自身の姿をイメージできた？

このキャンパスツアーは、実際の大学生のキャンパスでの様子に触れることで、将来の進路について、当事者意識を醸成させることを目的としたもので、ガイド役を務める日出学園OB・OGがキャンパス内を案内しながら、大学生活や受験勉強について、気軽に相談に乗ったり、アドバイスするというもの。

中学3年生は、午前1組・2組、午後は3・4組が、それぞれ6グループに分かれ、2グループごとにOG・OBが1～2名ずつついてキャンパスを探索。この日は平日ということで、授業が行われている校舎内には入れませんが、立教大学のシンボルともいえるチャペルや、立教大生が集う食堂、展示館、セントポールプラザ(大学売店)内を巡りながら、実際の大学生活を目の当たりにしました。

訪れた時は赤レンガの歴史的建造物に新緑のアイビー(蔦)が絡まる美しい季節。今回のキャンパスツアーで、中学3年生は将来の自分の姿を思い描くことができたでしょうか。

「立教大学池袋キャンパスツアー」の様子は

QRコードからご覧いただけます▶



中学校 高等学校

「情報Ⅱ」の授業を 文部科学省調査官ほか外部識者が視察 5月29日🍷

5月29日(金)、6年生(高校3年)の選択科目「情報Ⅱ」の武善紀之先生(右写真)の授業を、外部の教育関係者が視察しました。この日の来校者は、文部科学省の調査官等8名、福島県教育センターの職員2名、さらに、この授業で使われている教科書の出版社、東京書籍の社員2名。情報科目で先進的な取り組みを行っている本学園の授業について、これまでも学校関係者らの視察やメディアなどの取材が相次いでいます。

今回の授業は、生成AIを活用したアプリ開発実習を、12コマの中期プロジェクトと

して実施した単元のまとめとなる最終の2コマです(下記表)。

「この単元は、生徒がグループでスマホ用のアプリケーションを生成AIを活用しながら設計、試作品を開発し、学内擬似アプリストアでの公開と、その告知チラシの作成、利用者アンケートと分析に基づく再リリースまでの改善という、一連の流れを実習形式で行うもので、実践的な問題解決を通じて、『情報と情報技術を活用した問題発見・解決の探究』に接続する活動として位置付けたものです(武善先生)。

授業の開発にあたっては、DXハイスクール事業の一環として、本学園卒業生・尾崎正和氏(現・慶応義塾大学上席研究員)と共同開発し、視察当日も武善先生と尾崎講師によるTT(チームティーチング)で実習授業が進められました。

授業後には、視察された方々と情報交換会を行い、授業のねらいや課題、他の学校や下の年代に展開する上での問題点などの質問が相次ぎました。

また、福島県教育センターによる個別インタビューも行われ、情報の授業特有の授業マネジメントなどについて、専門的な質疑応答が行われました。

「情報Ⅱ授業視察」の様子は

QRコードからご覧いただけます▶



慶應大学で研究員を務めながら、実際にアプリを開発する尾崎講師も授業に参加

「生成AIを活用したアプリ開発実習」単元指導計画(計12コマ)	
コマ	日付
1	4/10
2	4/10
3	4/17
4	4/17
5	4/24
6	4/24
7	5/8
8	5/8
アプリリリース(全校高校生に配布)	
9	5/15
10	5/15
11	5/29
12	5/29

授業内容	
1	開発体験(勉強タイマーの開発)
2	チーム決め/Be You Sheet 記入/コンセプト設計
3	開発①(実際にやって大変さを知る)
4	↓
5	(再)要件定義
6	開発②・リリース準備(アンケート設計・フライヤー設計)
7	↓
アプリリリース(全校高校生に配布)	
9	AIを学ぶ① 顔画像検出システムを学ぶ
10	AIを学ぶ② 統計学を学ぶ(クラスタリング)
中間試験	
11	利用状況分析・発表・振り返り(本時)
12	改善活動(本時)

Topics／部活動報告／Information／2027年度 入学者対象 学校紹介イベント・募集要項

中学校・高等学校

教育分野での日本最大規模の展示会「EDIX」で成松万里奈教諭がメディアルームのリプレースの事例紹介

日本最大級の教育IT総合展「EDIX」(5月13日(水)～15日(金)：東京ビックサイト)にて、本学園メディアセンターの改修と活用事例について『図書館×AL(アクティブ・ラーニング)～人と情報が集まる場所の活用～』と題して発表を行いました。

今回の登壇は、改修を担当して下さった株式会社ガイアエデュケーション様のメディア取材で大きな反響があったことから、EDIXへの出展にあわせ、事例発表として「日出国園の活動をより多くの方へ届けたい」とお声がけいただいたこと



EDIXで本学メディアセンター改修の事例を紹介する成松先生

がきっかけです。発表までの準備期間中は、改修・活用事例という膨大な内容を限られた時間で伝えるため、打ち合わせを重ね、構成を考えました。

事例発表の当日は、「生徒たちの楽しそうな様子が印象的」「図書館の中にALスペースがあり、授業で使われている様子が見れて良かった」「生徒のホワイトボードの活用も面白い」「自校でも図書館内にALスペースを作りたいが、静と動のゾーニングの工夫が参考になった」など、図書館のあり方に関する具体的な質問や大きな反響をいただきました。

ガイアエデュケーション様からも「読書や学習など従来の枠を超え、探究やグループワーク、放課後学習など図書館の多様な可能性を発信できた」と嬉しい評価をいただきました。

今回の発表を通じ、空間と仕掛けの変化が生徒たちのコミュニケーションを活発にしている様子を全国へ共有できたことを大変嬉しく思います。素晴らしいご縁と機会をくださった関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。

(メディアセンター 司書/司書教諭 中学校・高等学校 探究科教諭 成松万里奈)

2026年度1学期《部活動報告》

高等学校軟式野球部が春季千葉県大会で優勝、関東大会進出。夏季大会も南関東大会へ進出するも、「全国大会出場!」は次の代に

日出国園高等学校軟式野球部の今年の活躍には目覚ましいものがあります。第74回春季千葉県高等学校軟式野球大会では、前年の第70回全国高等学校軟式野球選手権千葉大会の1回戦で、11対1の5回コールド負けを喫した八千代松蔭高等学校に4対3で競り勝って、16年ぶり3回目の優勝を果たしました。

その後、関東大会(第74回春季関東地区高等学校軟式野球大会)へ進んだ日出国園は、1回戦・伊奈学園総合(埼玉)、2回戦・高崎高校(群馬)を破って準決勝へ。しかし、準決勝で三浦学苑(神奈川)に7-0の完封で抑えられ、春の大会を終えました。

満を持して迎えた第71回全国高等学校軟式野球選手権千葉大会(夏の大会)では、日出国園は千葉商科大学附属高等学校を12対3で破って南関東大会へ。2つ勝

てば全国大会出場の期待が高まる中、初戦、「打倒!三浦学苑」に挑むも3対4の惜敗。今シーズンを終えました。2002年第47回大会で全国大会に初出場し、準優勝という輝かしい歴史を誇る日出国園軟式野球部。その夢の再来は、次の代へと持ち越されました。

高校軟式野球部の夏の南関東大会の試合の様子はQRコードからご覧いただけます▶



対三浦学苑戦後の日出国園高等学校軟式野球部(国府台球場)

文部科学大臣杯「第22回小・中学校将棋団体戦」で中学校囲碁・将棋部の3年生3名が東日本大会に初出場

日出国園中学校囲碁・将棋部が、「文部科学大臣杯第22回小・中学校将棋団体戦」(産経新聞社・日本将棋連盟主催)千葉県大会で、4位入賞(1位：市川中学校A、2位：市川中学校B、3位：渋谷教育学園幕張中学校A)、7月28日に東京・大手町サンケイプラザで開催された東日本大会に初出場しました(代表32校)。

4校総当たりのブロック予選では、日出国園は初戦の江別市立大麻中学校(北海道)に0-3で完敗。2局目の金沢大学附属中学校(石川県)には3-0で勝利、3局目の新潟市立上山中

学校(新潟県)にも2-1で勝利したものの、決勝トーナメントには進めず、予選で東日本大会を終えました。

「対局前は1勝できるだろうが、不安でしたが、2局勝てたことで自信になりました。」(宮寄さん)と、この夏、囲碁・将棋部の新たな歴史を築くことができた3名の3年生。この夏の県大会、そして東日本大会の活躍を受けて、囲碁・将棋部のさらなる研鑽と結果に期待したいところです。

◀写真右から、鳥越格さん・美濃島幹さん・宮寄健太さん(大手町サンケイプラザ)



新潟市立上山中学校 日出国園中学校

千葉県代表

新潟市立上山中学校

日出国園中学校

千葉県代表

新潟市立上山中学校

日出国園中学校

千葉県代表

新潟市立上山中学校

日出国園中学校

千葉県代表

新潟市立上山中学校

日出国園中学校

千葉県代表

新潟市立上山中学校

日出国園中学校

千葉県代表

新潟市立上山中学校

日出国園中学校

千葉県代表

新潟市立上山中学校

日出国園中学校

千葉県代表

新潟市立上山中学校

日出国園中学校

千葉県代表

新潟市立上山中学校

日出国園中学校

2027年度 新入園児・児童対象《学校紹介Event》開催

小学校 「授業体験会」7月4日(土)

6月27日(土)に予定されていた、今年の「授業体験会」ですが、台風7号・8号のダブル台風の影響で延期。1週間後の7月4日に開催しました。順延による参加者の動向が懸念されましたが、例年と変わらず大勢の親子の方々に、日出国園小学校の授業を体験していただきました。

当日は1教科約15分の授業を2コマ、webで事前申し込みし、国語、算数、社会、英語、生活の教科は普通教室で、理科、図工、音楽、情報は各専用教室、読書は図書館、体育はアリーナ2というように、普段と同じ授業をそれぞれ行いました。



緊張気味な子どもたちも、先生の優しい笑顔にホッとした様子

この「授業体験会」は、教える側の教員たちも、幼児や保護者から評価をいただくだけに、やや緊張の趣。しかし、わずか15分の授業でもしっかりと子どもたちの心を掴み、子どもたちは真剣に、そして楽しそうに授業に取り組んでいました。

小学校 「親子体験会」8月29日(土)

未就学児対象の「親子体験会」を、8月29日(土)に開催しました。このイベントは、小学校をテーマパークになぞらえて、校内に設けられた



不思議の国のキャラクターが勢揃い。在園生も見えたかった!

アトラクションを、スタンブラリー形式で回るので、今年のテーマは「不思議の国のアリス」です。教員がアリスや白ウサギ、ハートの女王に扮し、普段の教室では見ることのできないキャラクターが炸裂。子どもたちとも楽しそうに交わっていました。

この「親子体験会」は、毎年人気のイベントで、参加募集開始から早いうちに満員となって締め切りとなりましたが、参加希望のご要望が多く、20組を追加募集することにしました。例年にも増して大盛況だった日出ワンダーランド。夏休みの印象に残る思い出になったことでしょう。

幼稚園 「夏の親子お楽しみ会」7月25日(土)

夏休みに行われる、未就園児対象の恒例イベント、「夏の親子お楽しみ会」が7月25日に行われました。幼稚園ホールには「さかなつり」や「お面つくり」「プレスレットつくり」「びったんこボール」「ヨーヨーつくり」など、先生たちの手づくりによるコーナーが設けられ、2歳児や1歳児さんたちが、保護者の方々と楽しむ様子が見られました。

お楽しみ会の後半は、先生たちによる劇がありました。ふたばの子どもたちも大好きな手遊び歌『パンダ うさぎ コアラ』と一緒に歌ったり、先生たちがクレヨン妖精に扮して『どんないろがすき?』の歌とダンスを披露するなど、あっという間に時間が過ぎました。



この日の参加者に「どんないろがすき?」の歌とダンスをプレゼント

夏休みに入って、未就園児親子クラス『ふたば』もお休みでしたが、このお楽しみ会に大勢の『ふたば』のお友だちも参加。担任の池田先生、前田先生も、『ふたば』のお友だちとの久しぶりの再会を、満面の笑みで迎えていました。

INFORMATION docomo推し校応援プログラム報告

今年3月に開始したNTTドコモの「dポイント推し校応援プログラム」について、7月時点で5,412名が「日出国園(日和かつば)」デザインを設定し、応援金額は127,979円に達しました。皆様の温かいご支援に心より感謝申し上げます。

本プログラムは、普段のお買い物で貯めたdポイントに応じてドコモから本学へ「応援金」が届く仕組みです。ドコモ回線の契約がない方も参加可能で、ご自身のポイントが減るなどの負担なく、本学の教育環境をサポートいただけます。集まった応援金は、学園運営全体の充実のために大切に活用させていただきます。

プログラムは2027年1月31日まで継続して実施します。ぜひ「日和かつば」決済コードで日常のお買い物を楽しみながら、引き続き本学をご支援いただけますと幸いです。

プログラムへの参加方法等は右下QRコードよりご確認ください。

日出国園「docomo推し校応援プログラム」についての情報は、学園HPからご覧いただけます▶



日出国園 2027年度 募集要項

幼稚園	小学校	中学校	高等学校
募集人数 3年保育(3歳児)：約45名 2年保育(4歳児)：約10名	102名(男女) ※日出国園幼稚園からの内部進学者を含む	推薦入試：50名程度 一般入試1期：30名程度 一般入試2期：20名程度	推薦入試：50名程度(男女) 一般入試：20名程度(男女)※日出国園中学校を除く(特進コース30名程度を含む)
願書受付 ●Web：2026年10月1日(木)10時～10月21日(水)15時締切 ※願書配布はありません。Webにて願書入力をしていただきます。	第一志望入試 ●Web：2026年10月1日(木)0時～10月13日(火)12時締切 一般入試 第1回●Web：2025年10月1日(木)0時～10月13日(火)12時締切 第2回●Web：2025年10月1日(木)0時～11月12日(木)12時締切 第二志望入試 第1回●2025年10月16日(金)8時30分～ 第2回●2025年11月14日(土)8時30分～ 第三志望入試 2025年10月15日(木)17時～Web発表 第1回●2025年10月19日(月)12時～Web発表 第2回●2025年11月16日(月)12時～Web発表	推薦 ●Web：2026年11月1日(日)～11月17日(火)15時締切 ●郵送：2026年11月18日(水)までに必着 ●窓口：2026年11月18日(水)までに提出 平日9時～16時 土曜9時～13時 ※日曜・祝日は除く 一般入試 ●Web：2026年12月3日(木)～2027年1月12日(火)15時締切 ●郵送：2027年1月13日(水)までに必着 ●窓口：2027年1月13日(水)までに提出 平日9時～16時 土曜9時～13時 ※日曜・祝日は除く 一般入試 ●Web：2026年12月3日(日)～2027年1月19日(火)15時締切 ●郵送：2027年1月20日(水)までに必着 ●窓口：2027年1月20日(水)までに提出 平日9時～16時 土曜9時～13時 ※日曜・祝日は除く 推薦 ●推 薦：2026年12月1日(火)国語/算数/作文/面接 ●一般1期：2027年1月20日(水)国語/算数/社会/理科/面接 ●一般2期：2027年1月23日(土)国語/算数/社会/理科/面接 1期・2期 2科・4科選択方式 推薦 ●推 薦：2026年12月2日(水)Web 17時 ●一般1期：2027年1月21日(木)Web 17時 ●一般2期：2027年1月24日(日)Web 17時	推薦 ●Web：2026年12月17日(木)～2027年1月9日(土)15時締切 ●郵送：2027年1月11日(月)までに必着 ●窓口：2027年1月11日(月)までに提出 平日9時～16時 土曜9時～13時 ※日曜・祝日・12月29日～1月3日は除く 推薦 ●推薦：2027年1月18日(月)国語/数学/英語 ●一般：2027年1月18日(月)国語/数学/英語 グループ面接 推薦 ●推薦：2027年1月20日(水)Web 17時 ●一般：2027年1月20日(水)Web 17時

編集後記 夏休みは自分に栄養を与える期間

2学期が始まり、園児・児童・生徒たちが学園に戻ってきました。毎年、夏休み後の在園生たちは、少し見ない間に成長の跡が感じられます。家族と一緒に時間を楽しんだり、勉学に取り組んだり、部活動で鍛錬したりと、夏休みは自分自身に栄養を与える期間でもあります。その成果の一端は10月に行われる日出祭でもご覧いただけます。皆様のご来場をお待ちしています。

編集発行人 学校法人日出国園 学園長 青木 貞雄
学園通信「日出」Vol.50 2026年10月号

※本紙掲載記事・写真の無断転載を禁じます。

発 行 2026年9月30日
編集発行人 青木 貞雄(学校法人日出国園 学園長)
編 集 学園通信「日出」編集委員会
幼 稚 園 中川多恵 池田美緒
小 学 校 藤村信也 見目まどか 斉藤奈々
中 学 校・高 等 学 校 石川 茂
企 画 部 児玉尚樹 児玉孝喜 渡邊広樹